

*三鷹キャンパスの日時計について

三鷹キャンパスには正門を入ったロータリー近くに日時計(写真1)がある。この存在に気がついた方はあまりない存在感の薄い存在である。同じ作者の日時計が野辺山観測所にもあるそうだ。国立天文台は日本標準時を決定している日本国のお役所でもある。その研究



写真1

機関の玄関近くの大変いい場所に日時計がある。この日時計は東京造形大学教授の小野行雄氏が寄贈したものである。この日時計設置のニュースは国立天文台ニュース 1998年3月1日号(No. 62)の表紙を飾っている。そしてこの号のトップ記事が「日時計作り」と題した小野行雄氏の Essay である。この日時計について詳しくはこのニュースを参照されるのがいい。筆者は1998年といえば、ハワイに建設した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」建設のためにハワイにいたので、この日時計設置の頃のことは知らない。この頃の台長は「すばる」建設の中心になっていた小平桂一氏である。その台長が日時計寄贈に対する感謝状贈呈する写真も載っている。国立天文台は日本における天文学の中核研究機関である。その天文台が一芸術作家の作

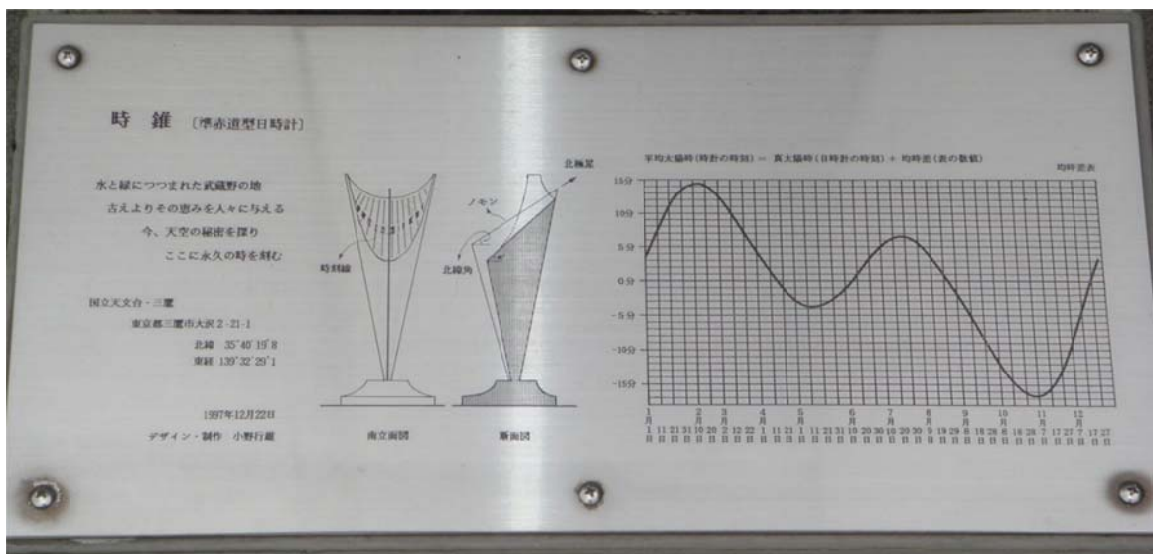


写真2

品の展示場として一等地を提供しているのであるが、日本標準時を決定している研究機関が、日時計を設置というのも面白いとも言える。この日時計は理論的にもよく考察されていて、非常に正確だと聞いている(写真2)。写真3は日時計設置を伝える国立天文台ニュースである。



写真3

この記事を書く気になったのは、天文台のある御仁から天文台の一等地にあるが、ほとんどの人が関心を持たない日時計について書いてくれと言われたことがきっかけである。この日時計も忘れられた存在ではあるが、アーカイブの対象ではないだろう。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp